

## ( 翔陽 ) 高等学校 平成 26 年度学校評価計画表

<b>1 学校教育目標</b>
心豊かで個性に富み、活力にあふれ、かつ礼節をわきまえた個性ある生徒を育成し、豊かな教養・専門的知識・技術を高めて、地域社会が求めている人材の育成を目指す。

<b>2 本年度の重点目標</b>
(1) 総合学科の特性を生かした教育実践を通して、地域に貢献できる人材を育成する。 (2) 全ての教育活動を通して規範意識を高め、自信と誇りを持った生徒を育成する。 (3) 進路目標達成のために、キャリア教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成する。 (4) 人権尊重の精神を養い、自他を大切にすることを育成する。 (5) 5S活動や翔陽絆プロジェクトを通して社会人・職業人として自立した人間を育成する。

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	総合学科の特色づくり	総合学科の工夫・改善	○将来に向けた総合学科のあり方の再検討	○総合学科研修会を年2回実施 ○新教育課程の検討と科目選択・ガイダンスの工夫	B	○インターンシップ職員研修(1回)、科目選択職員研修(2回)を実施した。今後も全職員で取り組む内容においては、職員研修を積極的に行っていきたい。 ○教育課程検討委員会(7回)において教育課程の大幅な変更を行った。今後は、実施に向けての諸課題の検討を重ねていきたい。
		総合学科のPR	○定期的な情報の発信	○HP・広報誌の活用と毎日のブログ更新 ○ICT・広報関係の分掌新設		B
	キャリア教育の推進	望ましい職業観・勤労観の育成	○進路意識の啓発	○社会人講師による講演会の実施 「外部講師招聘事業」を7授業実施	B	○宮川工務店様を招いての木造軸組工法の授業(1回)、華道永村和美先生を招いてのフラワーアレンジメントの授業(1回)華道・茶道実習(全5回)、勝久病院理学療法士 佐藤 亮先生を招いての認知症の予防とかかわり方の授業(1回)今後も専門性に富んだ外部講師招聘授業を行っていきたい。

			○将来を見据えた適切な科目選択	○科目選択ガイダンスを2回実施	B	○1年次では科目「産業社会と人間」、2年次では「総合的な学習の時間」において、6月（基礎調査）と10月（本調査）にガイダンスを実施した。ガイダンスの方法については、今後の教育課程の変更を行いながら注意深く見守りたい。
			○科目「産業社会と人間」の再点検及び活性化	○体験型学習の充実 科目選択との関係性を明確にした班別プロジェクトにする	B	○「自己の将来へ向けての考えを明確にする」という目標を持ち実施した。その後科目選択の本調査に臨んでいる。次年度の「産業社会と人間」については系列選択との関係に留意しながら年間計画を立てる必要がある。
		キャリア教育のシステム化	○インターンシップの活性化	○全職員の協力による事前事後指導の充実 ○「キャリアアップ報告書」を2年次前期までに完成	B	○全職員で実施先訪問などを行った。全員の協力のもとインターンシップを実施する事ができた。 ○後期で実施する2年次総合的な学習の時間「キャリアアップ報告書」において、1年次科目「産業社会と人間」から続けてきたキャリア教育の総まとめを行いたい。
			○デュアルシステム、総合研究の活性化	○成果発表会の開催 「総合的な学習の時間」の発表会を全系列で実施（11月または2月）	B	○デュアルシステムの授業は情報ビジネス系列において大津町役場様等の御協力のもと実施した。 ○後期では2月に「総合的な学習の時間発表会」を実施した。
	開かれた学校づくり	学校評価の着実な実施	○評価資料の収集と課題の明確化	○生徒保護者へのアンケート実施（11月末まで）、回収率95%にする ○教育懇話会委員による学校関係者評価を2回実施	B	○11月に学校評価アンケートを実施した。回収率は99%であった。記述においても、貴重な御意見を頂くことが出来た。今後の課題として取り組みたい。 ○教育懇話会委員より多方面からの貴重な御意見をいただき、日常の指導に役立てることができた。
			○目標や評価結果の公表	○広報誌「翼にのせて」とHPに掲載	B	○広報誌とHPに掲載することで、学校の状況を広く公表できていると思われる。
	ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	○地域行事への参加、社会福祉施設訪問、他校の学校行事への協力 ○翔陽「絆プロジェクト」の遂行	○ボランティア委員会活動の活性化 ○こまめな活動の紹介と募集 ○東北大震災被災地への継続的支援活動	B	○各種ボランティア活動への参加を整理し、生徒の参加状況を把握できた。 ○福島県立双葉翔陽高校との交流 ・全校生徒と職員による巨大モザイク画制作及び物品販売と写真展示を実施した。 ・修学旅行時に双葉翔陽高校と交流を行った。

	5 S 活動の推進	規範意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5 S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) 活動の推進</li> <li>○生徒の意識調査 年間平均90%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○十分な啓発と整理・整頓の日常化</li> <li>○アンケートの実施、分析、評価</li> <li>○分析、評価を受けての生徒への働きかけ</li> </ul>	C	○5 S 活動については前期前半より生徒の意識は高くなりつつあるが、「清潔」が継続性に欠けている。「躰」については、2年次、1年次が伸び代を残している。
学力向上	学力の向上	わかる授業の創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導法の工夫・改善 生徒による授業評価「説明」「興味・関心」平均3.0</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科担当者が3年に1回は研究授業を実施</li> <li>○授業評価に対応した取組の実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究授業は、予定の42.3%が実施済みである。後期後半で100%実施を目指す。</li> <li>○授業評価では「興味・関心」3.0、「説明」2.9であった。</li> </ul>
		家庭学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習60分以上を目指し、予習・復習の習慣化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習アップ週間を設定し、学習時間調査と宿題実施調査を行う</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習時間については、1年次51.8%、2年次55.6%、3年次84.4%である。</li> <li>○宿題実施状況は30.0%であったが、日常的な学習習慣をつけるためマナトレ等を実施している。</li> </ul>
		読書週間の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間一人平均貸出数10冊以上の読書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝読書の定着</li> <li>○読みやすい本、専門書の購入、授業での活用がしやすい環境を作る</li> <li>○読書週間の設定</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝読書は昨年度に比較して、かなり定着が見られる。</li> <li>○本の購入に関しては、予算削減によりかなり少なくなった。</li> <li>○読書週間は11月に1週間設定できた。今後定例化させていきたい。</li> </ul>
進路指導	進路保障	進路目標の達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路目標の100%達成</li> <li>○国公立大3名、その他の4大30名の合格</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全職員面接2回実施</li> <li>○専門系列と2・3年次との進路会議</li> <li>○模擬面接の充実</li> <li>○作文指導の充実</li> <li>○進学係による面談の充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2回行った。追加で主任主事面接も行った。</li> <li>○運営委員会で進路面談の在り方、教育課程検討委員会をとおして国公立大学等のカリキュラム対策を行った。</li> <li>○模擬面接については職員研修を行った上で行ったが、他の案件が入って短時間で終了してしまった。職員研修をさらに充実させなければならない。</li> </ul>
		早期離職の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>○適応指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブレ社会人セミナーの実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○求人票の見方を徹底的に行うとともに求人票からライフプランを考えさせる指導も行った。</li> <li>○社会人としての責任についての講話を行い、離職を抑えるための心構えを行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○中京方面・関東方面の製造業訪問</li> <li>○アドミッションポリシー及び生徒の研究テーマ調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年次・系列・事務部で、5月と2月の実施を考え、生徒の就職先保障に資する</li> <li>○夏休み中心に大学訪問(系列・学年連携)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県外大手企業へ目を向け、夢実現や社会的貢献を考えさせる進路指導も行っている。そのため県外の企業訪問を積極的に行った。少数ではあるが県外大手企業を受験内定する生徒もいる。</li> <li>○今年からコンソーシアム熊本「熊本総合大学」に参加。大学研究等をしたうえ参加させた。</li> </ul>	

		基礎学力の向上	○教務部との連携（目標を設定した効率的な学習）	○生徒の成績向上・能率アップの点から、毎日の勉強と夏季学習会の効率化	B	○各年次が日常的に基礎学力向上について指導しているため、対外模試で、確実に向上した。しかし、まだ多くの生徒に伸び代が残されており、各系列の資格取得の合格率アップを次の目標にしたい。
生徒指導	生活指導	基本的な生活習慣の確立	○整容指導の徹底 ○特別指導生徒数、前年度（29人）比20%減 ○転退学者数全体1.5%以下 ○5S活動（特に躰）の推進 ○マナーの向上 ○盗難ゼロの学校 ○2重ロック率100%	○教職員の共通理解と生徒・保護者への周知徹底 ○月1回の容儀検査の実施 ○段階的指導の推進 ○登下校指導（あいさつ、容儀、時間厳守） ○交通委員会（生徒、職員）による啓発と点検及び事後指導	C	○全体的に制服の着こなしは良くなりつつあり、落ち着いてきている。しかし、女子のスカート丈については、まだ改善の余地がある。特に冬タイトの着用と同時に丈を短くする傾向にある。 ○夏休みから現在にかけて、問題行動がやや増加傾向にある。 ○5S活動について、「躰」の項目において2年次、1年次が伸び代を残している。特に女子のスカート丈の規定を誤魔化して、「バレなければ」という意識が感じ取れる状況にある。 ○2重ロックについては生徒の意識がまだ低く、ロック率100%には程遠い。また登録のための整備不足の末、盗難も発生している。
		交通安全教育の充実	○生徒一人ひとりが、交通安全を意識した行動を実践して生徒が第一当事者の事故ゼロを目指す	○交通安全講話、通学方法別集会 ○単車通学生への実技講習及び安全指導 ○自転車通学生への実技講習及び安全指導 ○交通関係LHR	B	○生徒に対する講話、講習会など、生徒一人ひとりが交通安全を意識するよう取り組んできているが、残念ながら軽微な違反や事故が発生している。特に単車通学生については、違反、事故がある度に再発防止を図るため、緊急集会での指導をしているが、全員が自らの事として受け止めているとはいえないと感じる。
人権教育の推進	人権意識の向上	確かな人権感覚の育成	○人権問題についての正しい理解と認識を深める ○転退学者数減少を念頭にいた進路保障の実施	○定期的な職員研修の実施 ○校外研修への参加 ○生徒人権集会、人権教育LHRの実施 ○人権教育だよりの発行	B	○管理職、新転任者を中心に研修を年度早い時期に行い、本校や地域の状況などを理解した。集会所現地研修を実施し、人権尊重の精神を養った。 ○人権教育LHRや講演会、校内人権集会など自他を愛する取り組みを積極的に遂行した。 ○生徒を含め保護者にも更なる啓発が必要と考え、今後は更に力を入れていきたい。
	教育相談	教育相談活動の充実	○生徒支援体制の確立と強化	○学年、保護者等他の職員との情報の共有化 ○スクールカウンセラーとの連携	B	○毎週木曜日3限目に保健室との情報交換会を行い、遅刻や欠席の多い生徒の把握と生徒や担任・保護者からの情報を共有し、対策を練っている。

				○特別支援個人計画策定		○スクールカウンセラーの来校日を増やし、積極的に教室等の巡回なども実施していただいている。 ○学校での支援が可能な生徒には個別の指導計画を作成し、指導している。
	命を大切に する心を育 む指導	自他を愛する生徒の育 成	○「生命の大切さ」の指 導の徹底 ○悩み相談体制の充実	○道徳教育全体計画の策定 ○全職員による「命を大切にす る心」を育む指導プログラム実践 ○命を大切にする観点からの授 業実施 ○生徒・保護者への広報・啓発	B	○本校では各分掌、教科系列で検討し、道徳教育 全体計画および年間指導計画の策定を行った。 これら計画のもと、日々の授業において、命を 大切にする観点を重視した指導を行っている。 ○今後はアンケートの結果分析などを行い、広報 ・啓発にさらに努めていきたい。
いじめの 防止等	安心安全な 学校生活	いじめを生まない土壌 づくり	○いじめ防止等対策へ向 けた 組織体制の確立  ○保護者との連携強化  ○いじめの未然防止と早 期発見	○いじめ防止等対策委員会の設 置 ○年4回職員研修の実施 ○年2回保護者集会で啓発 ○家庭訪問及び定期的な個人面 談週間の実施 ○いじめ実態把握調査の実施 (6月、12月アンケート実施) ○情報の共有化 ○スクールカウンセラーによる 教育相談	B	○平成25年12月委員会設置 ○6月、2月に対策委員会、9月、1月に小対策 委員会を実施した。その他、適宜関係者を招集 し情報の共有を図っている。 ○育友会総会(4月)と夏休み保護者集会(7月 )でいじめ防止等における啓発を実施 ○6月第1回、12月第2回心のアンケート実施 による状況把握。 ○アンケート結果への対応は、対策委員の他、本 年度から4人体制とした教育相談室とスクー ルカウンセラーとの情報の共有化により迅速 な対応と継続的な見守りができている。
保健 管理	健康教育	健康な体と豊かな心の 育成	○健康観察の充実  ○性教育及び薬物乱用防 止教育の強化  ○自他を尊重したコミュ ニケーション(アサー ション)の普及	○健康観察の結果を基に教育相 談等と連携し、対応について話 し合う(週1回実施予定) ○性教育年4回実施(全体1回、 各年次LHR1回ずつ実施) ○薬物乱用防止講演会全体1回 実施 ○保健委員会で取り組み、文化祭 で発表する	B	○健康観察の結果を1ヶ月毎関係者に周知し、遅 刻欠席が多い者や急に欠席が増えた者へ関係 者で面談を実施。改善へ努めている。 ○性教育講演全体1回、1、2年次各1回実施。 感想文等から、よりよい生と性のあり方が理解 できたことが伺える。 ○薬物乱用防止講演会全体で1回実施。今年度の 内容は主に喫煙の害であった。生徒にとって、 より身近な問題であったので、理解が深まった と思える。 ○保健委員会でアサーションについて、職員及び 生徒へアンケート実施、また、パネルシアター を作成し、文化祭で発表。

教育環境整備	安全管理	救急救命職員研修の充実	○救急救命の実技講習計画と実施	○心肺蘇生研修の実施及びその他の応急処置等の確認をする	B	○教職員59人の意欲的な参加（昨年53人）があり、今年も積極的な応急処置・心肺蘇生法の実技講習会で学習できた。
		施設設備の安全管理	○安全点検の月1回の確実な実施	○点検結果をまとめ、回覧し、必要に応じ全職員へ周知する	C	○安全点検の意義及び実施方法を全職員に資料にて提示。毎月の点検場所に各部活動場所を追加した。
	学校版環境ISOの推進	環境美化の徹底と環境問題への意識高揚	○5S活動の5ポイントアップ ○ゴミの減量化 プラスチック完全分別による可燃ゴミ重量昨年比5%減少 ○節電・節水の推進 昨年度比10%減少	○環境教育講話の実施 ○プラスチックゴミの分別の徹底 ○校内美化コンクールの実施 ○「美化だより」発行 ○生徒美化委員会の活性化 ○掲示物の利用	B	○可燃ゴミ重量昨年同期比42%と今年も大幅減少し、ゴミ分別による5S活動は順調に推移している。美化に対する生徒の意識高揚に向けて、美化委員による校内巡回や日々の分別作業、「美化だより」での状況に応じた課題の投げかけや意識付けに取り組んでいる。しかし、情報発信・共通理解・周知徹底に課題が残っており、より効果的な方法を模索する必要がある。
		ハザードマップの作成	○美化委員会活動で確認	○校内危険箇所をマップ化し報告	B	○環境美化委員による1ヶ月間の巡回により、多くの危険箇所を確認でき、そのいくつかは対策もできた。
保護者・住民との連携	学校行事を通じた連携	学校行事等の開放と交流	○育友会との連携	○一人一役活動（翔陽祭、長距離走大会、登校指導、校外補導等）	B	○保護者に参加していただくことで、学校の様子を知っていただくことができている。豚汁会などは生徒にも好評である。 ○学校にお出でいただき、協力していただいている。 ○来年度に向けて、少しずつ具体的に進めているところである。 ○育友会でのバザーは昨年より盛況であった。 ○例年通り大津町内の小学生を中心に乗馬体験を行い好評であった。次年度も実施予定。 ○育友会も一緒に除草作業を行ったが、まだまだ夏場の除草作業が大変で何らかの工夫が必要。 ○室小学校との交流学习で、野菜の栽培・収穫を行っている。生徒・児童ともに笑顔が絶えず、収穫物を喜んで持ち帰っていた。
			○同窓会との連携	○学校支援、登校指導、後輩への激励 ○周年行事への準備	B	
			○地域住民との連携	○翔陽祭での物品販売 ○親子乗馬教室  ○地域花壇の管理	B	
			○近隣小学校との交流及び共同学習	○農作業体験学習	A	
	保護者との連携	学校理解の推進	○総会・年次別懇談会への出席率向上（70%達成）	○事前に質問等を準備して、内容の充実を図る ○欠席者集会の実施	C	○総会の出席率は63%と目標には達しなかった。日程も含めて検討が必要である。 ○欠席者集会の回数や実施方法などを検討したい。

#### 4 学校関係者評価

学校関係者（本校では教育懇話会委員）の方々に、地域の行政・教育や企業の立場から、「学校運営」「保護者・住民との連携」などについて多くの示唆に富む意見をいただいた。学校評価計画に掲げる評価項目においては、各評価項目について連動する目標について、「より具体的な達成基準を数値化することで、後の分析がより具体化され、次年度に向けた改善項目として設定しやすくなる」などの提言をいただいた。生徒指導では、「重点目標の一つである5S活動を基盤にした教育活動」を評価していただき、安全点検等では「誰がいつまでに改善するのかを示した改善シート等の作成により、情報の確認と共有化ができるようにする」などの提言をいただいた。また、地域の特産品を生かした商品づくりに取り組むなど、地域と連携した取組を強化し、学校の特色をさらに発信していくことを確認した。総じて、年間を通した取組の成果を認められ、今後も継続すると共にさらに期待しているという評価をいただいた。

#### 5 総合評価

- (1) 学校教育目標 : 地域社会に貢献できる人材の育成を目指して、キャリア教育に対する組織的な取組を実践することができた。
- (2) 重点目標 : 5S活動を基盤にしたすべての教育活動において、規範意識の向上やキャリア教育、人権尊重の精神の育成などに取り組むことができた。
- (3) 自己評価総括表 : 学校経営においては、就職や進学等で地域が本校に求める役割を明確にするために新教育課程を策定し、総合学科の特色づくりと地域への情報発信の強化に努めた。  
人権教育では現在の取組を継承し、生徒並びに職員の人権感覚の更なる醸成を図る必要がある。また、教育相談室を設置したことで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを含めた支援体制により、迅速かつ適切な対応が行われるようになってきている。外部機関と連携しながら更なる充実を図る必要がある。  
学力向上、進路指導、生徒指導、保護者・住民との連携においては、各部の連携を重視して取り組むことで成果が現れてきている。

#### 6 次年度への課題・改善方策

- (1) 学校評価計画に掲げる評価項目において、できる限り達成基準を数値目標化するなど定量化することで、中間検証や年度末反省においてより具体的に分析し改善策を提示し、継続的な取組となるようにしていく。
- (2) 学力向上を基盤とし、生徒が職業選択する際に必要な学習領域を分かりやすくした具体的な選択モデルを提示した新教育課程を、保護者や中学校・塾など外部にも周知するとともに、生徒へのガイダンス充実と進路保障を目指し、職員の理解を深めるために研修を充実させる。
- (3) 学校の特色づくりでは、地域の特産品を生かした商品づくりを目指し、来年度中に商品化ができるように地域との連携を強化し、さらなる情報発信に取り組む。
- (4) 育友会活動では、学校行事ごとに協力していただくなど熱心な取組が行われている一方で総会出席率は低迷しており、欠席者集会の時期や年次別懇談会を工夫し、保護者との協力体制と連携をさらに強化していく。